

2024 年 10 月 30 日

桑名市産業振興部農林水産課訪問記録

訪問者 桐生敏彦 寺田卓二

対応者 農林水産課 課長補佐兼農林振興係長 長谷川 善久氏
主任 野口 真寛

質疑応答

Q 桑名市では現在、桑名竹取物語事業化協議会が出来ていて、竹林の整備と活用を進められているが、桑名市はどのように支援されているのか。

A 上記協議会は、以前からタケノコ生産をされていた方が作られていた桑竹会（平成 21 年結成）を平成 26 年地方創生事業で支援することになったのが始まりである。令和元年からは森と緑の県民税を使って支援している。
支援方法は、補助金で 75% 補助である。

Q 森と緑の県民税での補助金額はどの程度か。

A 約 400 万円程度である。なお、補助金は別団体も使える。

Q 竹の活用についての補助制度はないのか。

A その制度はないが、今後、竹林整備の補助金を竹材の買い取り時に出すなどの方法に変更して、竹やタケノコの生産で、自立していくことを促すものへと変えていきたいとのことであった。

※その他

意見交換の中で話されたこと。

※1 上記協議会では、各団体がどのような役割を果たされているのか
この協議会は、ヒルカワ金属の社長（蛭川泰好氏）の発想で立ち上がり、多くの団体をつないでいった。
竹、タケノコの生産は、桑竹会が担当
タケノコの加工などは、株式会社 矢場とんホールディングスが担当
竹集成材の製作は 株式会社テオリ（岡山県真備町）
飛騨産業株式会社が担当

今後、規模が大きくなれば、いなべ市、朝日町にも呼び掛けたい。

※2 市役所の担当者の他の業務との関係は

桑名市に林業者はいないが、森林は多くあり、森林譲与税の徴収も本格化してくると市民の関心も高くなるので、取り組む必要があると考え、職員の少ない中、手をつけ始めた。職員は他の業務と兼務しながら行っている。

不足する分は、2週間に一度、森林アドバイザーに来てもらっている。また、県の四日市市農林事務所の県職員 OB にも相談に乗ってもらっている。さらに、職員（野口さん）が県の研修に参加している。

※3 協議会はどううまく回っているのか。

組織が大きくなり、大手の事業者も入っているので、事業者として要求（納期やロット）してくるが、桑竹会の人にとっては、認識は少ない方もあり、時には摩擦も生まれている。